

よっ葉だより

2017年
6月19日号
No.464

地産地消～よっ葉で育む
いのちと未来～
よっ葉生活協同組合



6月3日やさと農業体験は晴天に恵られました
JAやさと有機部会設立20周年おめでとうございます
「食べてくれる人がいるから作れるんです」

有機部会は20年前、より安全な野菜を消費者に届けたいという思いで部会をつくりました。1976年に東京の東都生協へ、直接たまごを届けたのが産直事業のはじまりです。全国でも早いスタートでした。よっ葉生協が納豆、鶏肉などを入れはじめたのは1996年のことです。

部会は1997年11月に7名で始め、翌年には研修生受け入れのために「ゆめファーム」を立ち上げました。2017年3月19期生が「ご夫婦で」入られました。この制度を立ち上げたのが、当時JAやさとの職員で現在は「朝日里山学校」代表の柴山進さんです。よっ葉生協の農業体験の全てを準備し、火田の世話をさせていただいています。部会は個人では対応出来ない限界をグループで克服しています。

よっ葉生協の有機農業、農産物の原点は、JAやさと有機部会にあります。農業体験でも、環境を汚さず人にやさしい農業を直に学ぶことができます。



「いばらき農業体験②のはじまりです！
JAやさと有機部会の農家さんとあいさつをする
柴山進さん（左から4番目）です」

「つくってくれる人がいるから食べられるんです」

私達はどんなに欲しいと願っても、つくってくれる人がいなければ食べることができません。有機農産物はまだまだ、欲しい物を仕入れることができない現実があります。安全で貴重な有機農産物をつくってくれる有機部会こそ、よっ葉生協にとって貴重な存在です。

6月3日は暑い中、かぼちやのつるを1本にするためにワキ芽をかき、とうもろこしも佐野の関塚さんの種が元気に育って、大きい1本のとうもろこしにするためにワキ芽をかきました。小松菜やカブは暑い日が続いて予定よりも早く大きくなりましたが、小松菜はナムル風に、カブ



「柴山さんに教わりながらワキ芽かき」

は漬物にして、お昼の一品になりました。お昼ご飯の交流会でやさと、ぐんま塩谷と



続けて農業体験に参加している幼い兄弟のお兄ちゃんがお父さんのひざの上に立って、「いつも仕事をしてくれてありがとう」と、農家さんへ感謝の言葉が自然に出て、嬉しい一瞬でした。小さい子と母さんを連れて参加されている、お父さんお母さんに感謝します。

野菜の育ちと子どもを育ちが楽しめるのも農業体験です。そして大人も学んで、楽しく、おいしい有機野菜をいただける農業体験に是非、ご参加を。

会長 畠居